

## 第465回 番組審議会

1. 日 時 平成23年6月14日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 9名

委員 長 清野 雅子

副委員 長 千葉 幸長

委員 望月 善次

委員 坂本 修

委員 柴田 和子

委員 池田 克典

委員 吉江 信博

委員 鈴木 正之

委員 平 英一

委員 遠藤 雅也

欠席委員 2名

委員 福田 泰司

委員 柴田 和子

社側出席者 矢後 勝洋 (代表取締役社長)

石井 修平 (専務取締役)

阿部 孝夫 (常務取締役)

淵沢 行則 (報道制作局長)

菅野 智 (営業局長)

平井 雅幸 (報道制作局次長)

澤藤 寛明 (5きげんテレビ部副部長)

事務局 山信田 寧 (編成技術局長)

畠 義真 (編成技術局編成部長)

平山 亜希子 (編成技術局編成部主任)

#### 4. 議 題

1. 05/20 (金) 16:25~17:50 5きげんキャラバン I N 釜石
2. その他ご覧になった番組についてのご意見
3. 放送番組種別の公表制度について

#### 5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

#### 6. 意見

##### 委員側意見

- いわゆるポスト震災で、元気が出る内容だった。とくに釜石を取り上げていたが、復興に向けて動き出した姿は元気がでる構成が強く感じられるものだった。
- 被害や大変な思いを忘れるわけではなく、番組の中でも配慮が感じられた。現実の大変さ、明るく振舞っていても裏の苦勞が伝わってくることを感じられ、復興のためにがんばる姿が描き出されていた。
- 被災の状況や復興の状況の進み具合がわかるので、テレビの影響力を感じた。今後も繰り返して継続してこのような番組を作っていただければ、岩手のためになると思う。
- 営業再開した店の商品が安いというのをもっと紹介してもいいが、出演者が「(価格に)もっと乗っけてもいい」というのは言わないほうが良かった。「これだけ安くしているんだから買いに来てください」でよかった。
- 番組の視点が生きていたと思う。被災者1人1人の生活再建と「なりわいの再生」を捉えたもので、意義ある番組。
- 復旧、復興にむかっている人たちの中でも、経営者は前向きで、老舗醸造会社の社長の話題は震災の大きさと絆の大切さを実感した次第。
- 震災への深い思いを秘めながら復興に向かっているテーマを表現するということで、バランスがとても難しいが、明るさの裏に深い思いを見ることができた。
- 一日も早い水産復興を願ったが、出演者の魚博士がくどくなってしまった。声のボリュームも下げてほしかった。
- 商品を美味しく映す、商店も元気に映す、ということで復興復旧を忘れて見たあとの余韻として「宝があった」と思った内容だった

##### テレビ岩手側意見

- もう少し緩やかに狭いエリアでやりたかったが、スタッフが大変だった。リハーサルでやってみて時間を調整して本番は修正していくのだが、釜石のみなさんに会ったら相談会みたいになってしまい、準備が一部できなかった。
- 今回の番組ではバランスを考えた。「復興に向かう人」と「とどまっている人」をどう考えるか、

希望を示していくのがわれわれの仕事で、お店の紹介もあえて「お店にこんなものありますので、釜石に来てください」ということでやってみた。

- 今回のキャラバンでは「どう受け入れられるか」が難しく、不安があった。吹奏楽部のこどもたちも出演を大変よろこんでくれた。やってよかったと思った。
- 何かあったときに危ない場所が多かったので、場所の選定、安全面の配慮でいつもの中継と違い手がかかった。被災地から放送する難しさがあった。

別載のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成23年6月28日(火)午前11時45分～11時52分放送)で、審議の概要を放送。

- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開